

令和4年度（2022年度）熊本市献血推進協議会議事録（要旨）

1 開催日時

令和4年（2022年）12月8日（木） 14時30分～16時00分

2 開催場所

熊本市役所本庁舎 7階会議室

3 出席委員（敬称略）

緒方 一郎、川田 晃仁、井芹 貴子、岡本 恭典、山川 李好子、市川 貴康、中島 由夏
以上7名

4 議題

- （1）令和3年度（2021年度）熊本市献血推進事業報告
- （2）令和4年度（2022年度）熊本市献血推進事業計画
- （3）各団体の献血推進活動等について
- （4）熊本県内の献血状況について
- （5）その他

5 議事録（要旨）

互選により、会長には緒方 一郎委員が、副会長には山川 李好子委員が選任された。任期は今年度から令和6年（2024年）3月31日まで。

- （1）令和3年度（2021年度）熊本市献血推進事業報告
事務局より説明。会議資料P1～3、及びP5～7詳読。
- （2）令和4年度（2022年度）熊本市献血推進事業計画
事務局より説明。会議資料P4詳読。

【質疑応答】

緒方会長）献血推進協議会資料P6の「1(2)熊本市の年代別献血者数の推移」について、年代別の献血者数が経年推移を見ると各年代間で開きが出てきているが、このことについて説明を聞きたい。

事務局）ここで説明すべきであるが、続く熊本県赤十字血液センターからの「熊本県内の献血状況について」の報告時に、年代別献血者数の推移のことも説明する予定であるので、その時に詳細に説明を行うことでよいか。

（3）各団体の献血推進活動等について

（各委員はそれぞれの献血活動の報告に際し、熊本市献血推進協議会資料P7の「3 各

団体の近年の献血推進活動状況（概要）」も活用しながら報告。）

① 緒方会長（熊本市医師会）

- ・例年、熊本市民健康フェスティバルとタイアップし、移動採血車による献血活動を行ってきた。また、本荘校区で行われている校区献血の会場として協力してきた。さまざまな献血活動を実施してきたところであるが、新型コロナの影響で啓発イベント・本荘校区での献血活動などが実施できていない。

② 川田委員（熊本商工会議所）

- ・会員会報誌やホームページなどを活用して献血推進の広報活動や、企業献血の実施を呼びかけている。新型コロナの影響でさまざまな企業活動が制限され、経済活動が停滞し厳しい状況である。新型コロナが収束したときには、以前のように献血への協力依頼等を行っていききたい。

③ 井芹委員（熊本キャスルライオンズクラブ）

- ・ライオンズクラブ全体として、献血啓発活動に力を入れており、高校献血や献血セミナーを例年行っているが、新型コロナの影響で以前のように実施できていない。研修において重要な役割を担っている久留米の血液センターの見学受入が中止になっており、若年層への献血セミナーは実施しにくいので苦慮している。また、中止が続いたことから、クラブの各担当者へも再学習・周知・啓発を行っている。

④ 岡本委員（熊本市地域献血推進連合協議会）

- ・熊本市地域献血推進連合協議会活動資料を配布。
- ・献血協力者等に配布する啓発品について、若年層向けにした協議会オリジナルクリアファイルを4種類作成し、校区献血協力者に提供している。年3回協力いただいた方は3種類入手できることになり、複数回行くことのきっかけにもなる。
- ・新型コロナの影響で、献血バス（移動採血車）・校区献血での献血は、中止が続いている校区もあり全体としては苦戦している。
- ・現在、校区献血の協力者等に配布する新たな啓発品の選定を進めている。

⑤ 山川副会長（熊本市地域婦人会連絡協議会）

- ・これまで好評を得ていた、毎週月曜日に下通りCOCOSA献血ルームでお味噌汁とおにぎりを献血者に提供していた活動は令和4年度は準備を行う場所が確保できなくなったことで中止になっている。準備場所を確保するための新たな予算を獲得するなどして再開したい。
- ・校区献血の受付など地域の献血啓発活動をさまざまな会場でサポートしている。新型コロナの影響により、会場によっては屋内から屋外に変更して活動を行ったときもあった。
- ・下通りCOCOSA献血ルームで渡す啓発品作りを行っている。

⑥ 市川委員（熊本市社会福祉協議会）

- ・熊本市地域献血推進連合協議会への助成を継続的に行っている。
- ・熊本市社会福祉協議会は地域の福祉事業をサポートしており、関連施設で献血推進ポスターの掲示や、啓発冊子の設置などを行っている。

⑦ 中島委員（熊本県学生献血推進協議会）

- ・熊本県学生献血推進協議会活動報告資料に添って詳細に説明。
- ・（報告内容の主なものとして、）キャンペーンや助け合い運動などの学生協議会としての活動は、令和3年度は7月に愛の献血助け合い運動、12月に全国学生クリスマス献血キャンペーン、1月にはたちの献血キャンペーンを実施した。新型コロナの影響で厳しい状況であった令和2年度より多くの活動を行えた。
- ・各大学にて学生向けに献血に関する正しい知識を発信する献血セミナーは、令和3年度は9大学で11回実施し、受講者の合計は1,873名であった。
- ・各大学で行う学内献血は、令和3年度はほとんど全ての8大学で行え、献血者数が令和2年度から404名増加し812名であった。

（4）熊本県内の献血状況について

熊本県赤十字血液センター献血推進課長 岩根一己氏から「熊本県内における血液事業の現状について」の資料に添って詳細に報告。（説明資料のテーマは、①血液事業の仕組みと流れ、②献血状況、③今後の取り組み、④新型コロナウイルス関連の4点。）

・緒方会長からの質問に関連する、「年代別献血者数の推移（県内）」については、献血の基準などが関係していて、現在の50代は高校献血がしっかり行えていたが、現在の30代は若いときに献血の機会が少なかった。若年時の経験や基準のことが要因の一つであり、現在の30代が伸び悩んでいることにつながっている。平成23年に400mL全血献血が可能な方の男性の年齢の下限が18歳から17歳に下げられたことを受けて、改めて高校献血も推進している。ただ、新型コロナや熊本地震の影響で、ここ数年は高校に献血セミナーなどご協力いただきにくくなっている。

・（報告内容の主なものとして、）献血された血液の使用状況については、交通事故などのけが・出血時に使用されることが多いと誤解されやすいが、実際には病気の治療時に使用されることが断然多い。

・献血にご協力いただいている方の実績は1年に1回が半数以上を占めており、安定した供給につなげるため複数回献血も呼びかけていく。

・予約献血を推進しており、ホームページでの予約受付を行っているが、新たにスマートフォン向けのアプリも作成してより簡単に予約受付できるようにした。

・新型コロナワクチン接種後の献血制限期間、新型コロナに感染後の献血制限期間などについて周知していきたい。

【質疑応答・発言等】

緒方会長）（熊本県赤十字血液センターからの「年代別献血者数の推移（県内）」報告を受けて、）現在の50代以上の方は高校献血など若年時に献血を多く経験し、抵抗感が少なく献血に積極的にかつ長きにわたり続けていただいている。若年層に献血の協力をお願いしていくことは、このような年代別献血者数の推移データからも改めて重要であることが分かる。

(5) その他

事務局から「骨髄等の移植ドナーに助成金を交付します（熊本市骨髄等移植ドナー助成事業）」の啓発チラシに添って、令和4年度から当該事業を開始したことを紹介。

【質疑応答・発言等】

井芹委員）これまで骨髄等移植ドナーへの助成について、さまざまな機会を通じて熊本市でも助成事業を行えないかをお願いしてきたところであり、令和4年度から開始されたことはありがたい。